

第2日 ジークフリート

Zweiter Tag Siegfried
[全3幕/ドイツ語上演/字幕付]

企画: 若杉 弘
Planned by: Wakasugi Hiroshi
芸術監督代行: 尾高 忠明
Acting Artistic Director: Otaka Tadaaki
指揮: ダン・エッティンガー
Conductor: Dan Ettinger

ジークフリート: クリティアン・フランツ
Siegfried: Christian Franz
ミーメ: ヴォルフガング・シュミット
Mime: Wolfgang Schmidt
さすらい人: ユッカ・ラジライネン
Der Wanderer: Jukka Rasilainen
アルベリヒ: ユルゲン・リン
Alberich: Jürgen Linn
ファフナー: 妻屋 秀和
Fafner: Tsumaya Hidekazu
エルダ: シモーネ・シュレーダー
Erda: Simone Schröder
ブリュンヒルデ: イレーネ・テオリン
Brünnhilde: Irène Theorin
森の小鳥: 安井 陽子
Waldvogel: Yasui Yoko
管弦楽: 東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra: Tokyo Philharmonic Orchestra

<初演スタッフ>
The original production team
演出: キース・ウォーナー
Production: Keith Warner
装置・衣裳: デヴィッド・フィールディング
Set and Costume Design: David Fielding
照明: ヴォルフガング・ゲッベル
Lighting Design: Wolfgang Göbbel
振付: クレア・グラスキン
Choreographer: Claire Glaskin

舞台監督: 大仁田 雅彦
Stage Manager: Onita Masahiko



第3日 神々の黄昏

Dritter Tag Götterdämmerung
[序幕付全3幕/ドイツ語上演/字幕付]

企画: 若杉 弘
Planned by: Wakasugi Hiroshi
芸術監督代行: 尾高 忠明
Acting Artistic Director: Otaka Tadaaki
指揮: ダン・エッティンガー
Conductor: Dan Ettinger

ジークフリート: クリティアン・フランツ
Siegfried: Christian Franz
ブリュンヒルデ: イレーネ・テオリン
Brünnhilde: Irène Theorin
アルベリヒ: 島村 武男
Alberich: Shimamura Takeo
グンター: アレクサンダー・マルコ=ブルメスター
Gunter: Alexander Marco-Buhrmester
ハーゲン: ダニエル・スメギ
Hagen: Daniel Sumegi
グートルーネ: 横山 恵子
Gutrune: Yokoyama Keiko
ヴァルトラウテ: カティア・リッティング
Waltraute: Katja Lytting

ヴォークリンデ: 平井 香織
Woglinde: Hirai Kaori
ヴェルグンデ: 池田 香織
Wellgunde: Ikeda Kaori
フロスヒルデ: 大林 智子
Flosshilde: Ohayashi Tomoko
第一のノルン: 竹本 節子
Erste Norn: Takenoto Setsuko
第二のノルン: 清水 華澄
Zweite Norn: Shimizu Kasumi
第三のノルン: 横川 まり
Dritte Norn: Midorikawa Mari
合唱指揮: 三澤 洋史
Chorus Master: Misawa Hirofumi
合唱: 新国立劇場合唱団
Chorus: New National Theatre Chorus
管弦楽: 東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra: Tokyo Philharmonic Orchestra

<初演スタッフ>
The original production team
演出: キース・ウォーナー
Production: Keith Warner
装置・衣裳: デヴィッド・フィールディング
Set and Costume Design: David Fielding
照明: ヴォルフガング・ゲッベル
Lighting Design: Wolfgang Göbbel

舞台監督: 大仁田 雅彦
Stage Manager: Onita Masahiko



<ジークフリート> [あらすじ]

ジークムントとジークリンデの遺児ジークフリートはアルベリヒの弟ミーメによって育てられ、強い若者に成長する。一方、巨人兄弟の弟ファフナーは大蛇に姿を変えて財宝を護っている。ミーメはジークフリートに大蛇を倒させ、財宝を奪う魂胆だ。ジークフリートは首決闘で砕かれた名剣ノットゥングを鍛え直し、大蛇を退治し、指環と隠れ頭巾を手に入れる。さらに自分に毒を盛ろうとしていたミーメを斬り倒し、小鳥に導かれてブリュンヒルデの眠る岩山へと向かう。途中さすらい人(ヴォータン)に会うが、剣で彼の槍を折り、先に突き進む。そして炎を越え、ブリュンヒルデを目覚めさせ、二人は永遠の愛を誓う。



本当の物語はここから始まる

新国立劇場合唱指揮者 三澤洋史

楽劇「ニーベルングの指環」台本の成立は変わっている。まず英雄ジークフリートの死をめぐる物語を書いたワーグナーは、その英雄の生立ちとブリュンヒルデを得るまでの物語を書きたくと思った。それを書き上げると、今度はその英雄が生まれる由来、すなわち両親の悲しい物語と、岩山に眠らされるブリュンヒルデのいきさつを描いてみたいと思った。それからさらにその前話、すなわち指環をめぐる権力闘争と世界の没落の由来を書き表してみたくなったのだ。こうして物語を逆にたどる形で書かれたこの台本は前話を集めたオムニバスのようであり、全編を貫く主人公がいない。しかしこの叙事詩の主人公は、そもそも人ではない。それは「権力と欲望、そして世界の没落」なのだ。

ところが、これを「ジークフリート」以降の二作に限定すると、れっきとした主人公がいる。それもワーグナーが自分の書いた全てのキャラクターの中でも最も愛した主人公だ。すなわちジークフリートである。

「ジークフリートの中に、私は私の理解する限りの完全な人間を表現しようとした。ジークフリートでは、全ての意識がひたすら現在の生活や行動の中に現れるという形で、最高の意識が存在するのである。」

それまで西洋を支配していたキリスト教的価値観の中での完全な人間というのは、キリストのような自己犠牲の愛に生きた人物像であったが、ワーグナーはそれに対し、近代的自我の確立にふさわしい新しい人間像を創造する。これは彼の楽劇に登場する男性主人公に共通した要素でもあるが、ジークフリートに最も純粋な形で表現されている。その代わり、自己犠牲の役を担うのは、もっぱらゼンタ、エリーザベトなどの女性だ。英雄ジークフリートは、恐怖を知らず、なにものにもとらわれず自由で若竹のようにまっすぐに伸びてゆく人間だ。その純真さと生き生きとした生命力はまばゆいほどで、彼がノットゥン

グを鍛えたり、大蛇ファフナーを退治したりするのを見ると胸がスカッとする。

楽劇「ジークフリート」は英雄の成長物語である。しかし、この楽劇の本当のテーマは思春期と性のアナリゼ(分析)だ。ジークフリートは自分にふさわしい異性を夢想する。だが常に母親への思慕と混同する。彼が岩山の頂で炎を越えブリュンヒルデを発見し、彼女が女性であることに気づいた時には、うるたえて「お母さん、お母さん、僕を忘れないで!」と叫ぶ。初めて異性を得るということは、母親へのリビドー(性衝動)を自らの中で殺すことであるとワーグナーは作品の中で解き明かしてみせるのだ。森や大蛇はリビドーの象徴。

さて、「神々の黄昏」になるとジークフリートの内面に焦点を絞った前作に代わって、再び指環をめぐるヴォータンとアルベリヒの権力闘争という叙事的テーマが戻ってくる。それにジークフリートが絡み合って、世界の没落に向かって物語が進行していくのだ。

僕は「神々の黄昏」の音楽は本当に凄と思う。一瞬として月並みな瞬間がなく、全てが独創的だ。縦横に張りめぐらされたライトモチーフ(指導動機)は、まるで言語のように単語の定義から始まって目に見えない概念や場面ごとの雰囲気や象徴的な事柄を自由自在に語り尽くす。そうした雄弁な音楽を支えるのは色彩的な管弦楽。まさに天才のみが成せる業!円熟の極み!

圧巻は、全てが破滅した後に響き渡る「愛のモチーフ」の美しさだ。この陶酔!欲望故に没落した世界の向こうに新しい時代の到来を予感させる終幕の象徴性は、環境的な危機が疑がれる現代において最も大きな意味を持つのではないか。僕は皆さんに是非「ジークフリート」と「神々の黄昏」をセットで観ることを奨める。ワーグナーが描きたかった本当の物語はここから始まるのだから。



<神々の黄昏> [あらすじ]

運命の女神ノルンたちが過去・現在・未来について語り、神々の終末が近いと予言する。ジークフリートは妻ブリュンヒルデに指環を与え、旅に出る。ギービー族の館を訪れたジークフリートは、アルベリヒの息子ハーゲンの策略により、忘却の薬を飲まされて、妻のことを忘れてしまう。彼はグートルーネに一目惚れし、グンターと義兄弟の誓いを交わし、グンターの花嫁としてブリュンヒルデを拉致する。復讐を誓うブリュンヒルデ。指環を狙うハーゲンはジークフリートの背に槍を突き立て殺害。ブリュンヒルデは神々を告発しつつ、夫を火葬する炎の中に飛び込む。やがて神々の世界は消滅し、指環はラインの娘たちの手に戻る。

